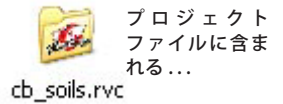
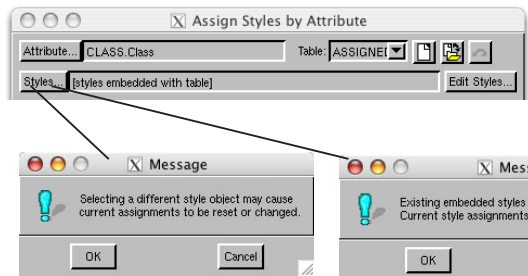


# スタイルオブジェクトの埋め込み vs リンク

スタイルオブジェクトは、プロジェクトファイル中のメインレベルのオブジェクト(多くのベクタ、シェイプ、CAD、TNT オブジェクト間でスタイルを共有するために作られたオブジェクト)になったり、図形オブジェクトやスタイル割り当てテーブルのサブオブジェクトになることがあります。メインレベルのスタイルオブジェクトのスタイルを使うためには、リンクやコピーが必要です。メインレベルのスタイルオブジェクトにリンクすると、コピーすることなく、スタイルオブジェクト中の全スタイルにアクセス出来ます。この方法の利点は、メインレベルのスタイルオブジェクト内のスタイルを変更すると、そのスタイルを使う全ての図形オブジェクトの表示において変更が自動的に反映されます。スタイルオブジェクトのリンクの短所は、オブジェクトやレイアウトを別の場所にコピーする際、リンクしたスタイルオブジェクトのコピーを忘れて、オブジェクトの表示の際スタイルが使えなくなる点です。スタイル割り当てテーブルのサブオブジェクトであるスタイルオブジェクトは、「埋め込みスタイルオブジェクト」と呼ばれます。埋め込みスタイルオブジェクトは、ベクタのスタイル割り当てテーブルのサブオブジェクトなので、コピーしたときいつもベクタオブジェクトと一緒に付いてきます。

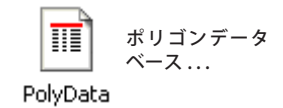


スタイルオブジェクトと図形要素で使われる描画スタイルは、スタイル割り当てテーブルによって結びつけられていますが、〈属性によるスタイルの割り当て (Assign Styles by Attribute)〉



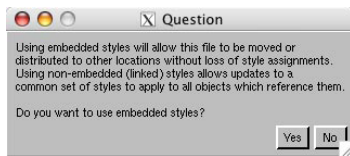
スタイル割り当てテーブルは埋め込みスタイルテーブルを持っていない。

ウィンドウでその設定や修正を行います。スタイル割り当てテーブルで選ばれるスタイルオブジェクトを変更すると、新たに選択したオブジェクトと同じ名前のスタイルがないと、スタイルを見失う可能性があります。それゆえ [スタイル] ボタンをクリックすると、起こりうる結果について警告を受けます(左がそのメッセージウィンドウ)。



スタイル割り当てテーブルは埋め込みスタイルテーブルを持っている。

メインレベルのスタイルオブジェクトか異なるベクタのスタイルサブオブジェクトを選択すると、選択したスタイルオブジェクトを埋め込むかどうかかきかれます。「Yes」を選んだ場合、選択したスタイルオブジェクトは現在のスタイル割り当てテーブルの下にコピーされます。「No」を選んだ場合、選択したスタイルオブジェクトへのリンクが作成されます。

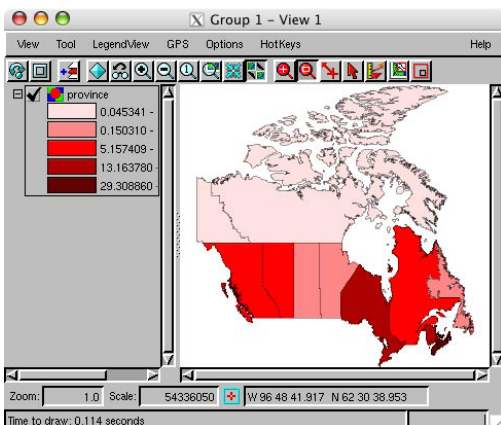


メインレベルのスタイルオブジェクトやベクタ中のスタイルサブオブジェクトを選択すると、それらを埋め込みスタイルオブジェクトへコピーするか、またはリンクして使用するか、質問されます(左図が質問ウィンドウ)。

## 主題図の作成

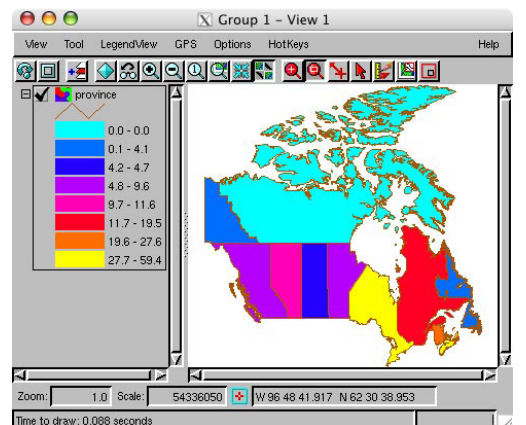
# シェイプファイルのテーマ範囲の編集

シェイプファイルは、インポートせずに直接 TNT 製品で使うことができます。もし、付属のスタイルファイル(\*.avl)でテーママップを定義している場合、そのテーマは「テーママップエディタ」を使って編集できます。例えば、元のテーマ



元の5クラスの人口の主題図 (シェイプファイルを直接使用)

を編集して、クラスを追加し、凡例に表示する小数点以下の桁数を少なくしました(右図)。これらの変更は、リンク(\*.rlk)ファイルに保存されますが、ArcViewでは利用できません。(インポートした)内部ベクタオブジェクトに作られるテーマは、シェイプファイルにエクスポートできます。



TNTで編集した8クラスの人口の主題図